

香美町ならではの 教育の挑戦

●問い合わせ先 町教育委員会こども教育課

幼児期における非認知能力の育成

子どもの成長にとって、幼児期に非認知能力を育成していくことは大変重要です。この「非認知能力」とは、読み書きや計算などの数値では測れない能力で、大きく分けて、自尊心、自己肯定感、自立心などの「自分に関する力」と、一般的には社会性と呼ばれる、協調性、共感する力、思いやりなどの「人と関わる力」をいいます。

今回は、非認知能力の育成について、香住幼稚園の取り組みを紹介します。

自分の言葉で伝える

コミュニケーションを図る上で、言葉はとても重要な手段です。しかも、その場に応じた言葉や使い方が必要となります。

自分の気持ちや考えを言葉で人に伝える表現の仕方を学ぶため、運動会のリレーの走順をグループで相談して決めたり、ほかのクラスの演技を見て感想を発表したり、小学1年生の音読劇「くじらぐも」を聞いた感想を伝えたりするなど、さまざまな状況で自分の言葉で伝える機会を設定しています。そのような経験を重ねることで、コミュニケーション能力が育っていきます。



リレーの走順について話し合い

絵本に慣れ親しむ

幼児がいろいろな絵本に触れることは大切です。絵本を読んだり読んでもらったりすることで想像力を働かせ、創造性が高まります。

園では、毎月第2火曜日を、保護者や香住区中央公民館の図書館司書が絵本や紙芝居の読み聞かせをする「夢ふうせんの日」としています。担任とは違う本の選定や読み手の個性があり、絵本の豊かな世界を毎回紹介していただいています。園児たちは、絵本の主人公と一緒にワクワクしたり、ドキドキしたりしながら絵本の世界に浸り、友達や先生と同じ世界を共有する楽しさを感じています。



読み聞かせの様子

きまりを守る

遊びは幼児にとって最も重要な活動です。遊びながら自分たちにとって必要なルールを作っていきます。

園庭のブランコは2つしかないので、園児たちの順番待ちの列ができますが、みんながブランコに乗れるように、10まで数えると待っている友達と交代しています。

このようにしながら、遊びにはルールがあることを覚えていきます。きまりを守ることは、社会の秩序を理解する上での基本的な態度となります。



ブランコの順番待ち

香住幼稚園では、「褒める」・「認める」・「受け止める」姿勢を常に持ち続けながら、今後も生きていくために必要な力である「非認知能力」を一人一人に育てていく取り組みを進めていきます。